

校舎の変遷を辿って《垂水校舎》の再現模型の製作に当たり

県商生が当時の思い出を先輩に聞く

- ◇開催日時 平成 28 年 8 月 5 日（金） 13：30～15：30
◇場 所 イフレ館 1階
◇語り手 宝官進一郎先輩（67回生）
河合 義雄先輩（69回生）
石破 利久先輩（70回生）
聞き手 母校1年7組のみなさん（4名）

母校の1年7組(情報科)の皆さんが本年度の文化祭(9月21日開催)で旧垂水校舎を紙で再現しこの模型を展示することになり、当時の校舎の外観や生徒の様子等について3名の先輩諸氏にインタビューをしました。

垂水校舎は昭和7年に竣工、当時、校舎の周りには民家はなく、垂水の山上に県高商（後の神戸商大、現県立大）と並んで白亜の校舎・県商の雄姿は誰もの憧れの的であったとか、ほぼ同年代をこの県商垂水校舎で学んだ先輩諸兄の記憶力は鮮明で、70年以上前の話ではありますが、後輩たちの質問にははっきりと答えて頂き、この日、後輩達が持ち込んだ模造紙で作った校舎平面図に先輩自らが記憶の中の学び舎を鉛筆で書き込み、ほぼ校舎の全容が解明した時には後輩達もほっとした様子でした。

最後に後輩の1人から「戦争について当時どのように感じていましたか」との質問を受け、先輩諸兄、異口同音に「当時はそれが正しいと教えられていたが、戦争は絶対にしてはいけない、させてはいけない。」と語り、「戦後70年を経過して、日本は奇跡的な発展を遂げ、平和を享受していますが、このかけがいのない平和の尊さを次世代に引き継いでいってほしい」と結ばれました。

旧県商・垂水校舎（現星陵高の場所）

旧神戸高商(現県立大と並立)



先輩諸兄の話に聞き入る後輩達

28.08.05(於イフレ館)